

水稻の生育状況と今後の管理対策（第8号）

平成 29 年 8 月 1 日
新潟県農林水産部

〔要約〕

7月31日現在の水稻の生育状況

- ◎ コシヒカリの^{しゅっすいき}出穂期^{*1}は、平年並みの見込みです。
- ◎ コシヒカリの生育は、指標値（生育のめやす）に比べて、草丈、茎数、葉数、葉色いずれも「並み」の状況です。

今後の管理対策

- ◎ 早生品種を含め、根の活力を維持するため、出穂期の25日後までは^{ほうすい}飽水管理^{*2}を徹底しましょう。
- ◎ コシヒカリで、現在、葉色が淡く、2回目の^{ほごえ}穂肥^{*3}施用後も葉色の低下が見られる場合は、地域情報を参考に^{ほごえ}出穂期の3日前までに追加穂肥を施用してください。
- ◎ カメムシ類の発生量が多くなっていますので、薬剤防除を徹底しましょう。
- ◎ 熱中症を防止するため、農作業は気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行いましょう。

*1 出穂期：全体の茎の40～50%で穂が出た日

*2 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと。

*3 穂肥：穂が出る前に追肥すること。

〔7月31日現在の生育〕

- 出穂期は県平均で、こしいぶきでは平年並みの7月30日、コシヒカリでは平年並みの8月6日頃の見込みです。
- コシヒカリの生育は、指標値（生育のめやす）に比べて、草丈は「並み」、茎数は「並み」、葉数の進みは「並み」、葉色は「並み」の状況です。

〔今後の生育見込み〕

- 北陸地方の1か月予報（7月29日から8月28日までの天候見通し）では、平年に比べ晴れの日が少なく、平均気温は平年より高い確率が50%、降水量は平年並の確率が40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。
- カメムシ類の発生量が多く、斑点米が多発する可能性があります。
- また、コシヒカリでは、高温が続くと栄養不足につながる場合があります。

〔当面の管理対策〕

- こしいぶき・コシヒカリともに、白未熟粒の発生を抑え、品質を確保する上で非常に重要な時期ですので、出穂期前後から出穂期の25日後までは、根の活力を保ち、土壌からの窒素供給を図るため、飽水管理を徹底しましょう。

- コシヒカリで、現在、葉色が淡く、2回目の穂肥施用後も葉色の低下が見られる場合は、地域情報を参考に出穂期の3日前までに追加穂肥を施用してください。
また、全量基肥施肥*4（基肥一発）では、今後、葉色が低下し、出穂期の葉色値（SPAD値）が32～33を下回ると予想される場合には、地域情報を参考に加穂肥を施用してください。
- 気象情報により、強風やフェーン現象による高温が予想される場合は、白穂等の発生による被害を軽減するため速やかに湛水しましょう。
- カメムシ類の発生が平年より多く斑点米の多発生が懸念されますので、出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。
- 今後も農作業時の熱中症や事故を防止するため、施肥や草刈り等の作業は、日中の気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行いましょう。また、1人で作業する場合は、家族等へ行き先を告げるとともに、万が一に備え携帯電話を身につけておきましょう。

*4 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前に一度に施す施肥法。

◎ 今後の管理対策発行予定日	8月22日、9月12日
----------------	-------------

〔補足資料〕

1 コシヒカリおよびこしいぶきの生育状況

1 頁の「水稻生育状況と今後の管理対策」の生育状況は、下記の生育調査結果及び他の調査結果を含めた生育状況です。

(1) 農業普及指導センターの「生育調査ほ」の結果は以下のとおりです。

- コシヒカリの草丈は指標値（生育めやす）並みで、茎数は並み～やや多い。葉色は指標値並み～やや濃くなっている（表1、表2、図1～4）。
- こしいぶきは指標値に比べ、茎数はやや多く、葉色は濃い（表3）。

表1 コシヒカリの生育調査ほ調査結果

項目	7/31 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
草丈	90 cm	87 cm	103%	・ 平年比 99%、H28 年比 93% ・ 指標値並み。
茎数	387 本/m ²	372 本/m ²	104%	・ 平年比 102%、H28 年比 100% ・ 指標値並み。
葉数	13.2 葉	12.9 葉	+0.3 葉	・ 平年差 0.0、H28 年差 -0.2 ・ 指標値並み。
葉色 (SPAD 値)	34.3	32.8	+1.5	・ 平年差 +2.1、H28 年差 +1.1 ・ 指標値よりやや濃い。

注：県内 15 か所に設置した生育調査ほの平均、田植日 5/11、栽植密度 57 株/坪

表2 品質安定化対策実証ほ調査結果（コシヒカリ）

項目	7/31 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
草丈	88 cm	87 cm	101%	・ 指標値並み。
茎数	392 本/m ²	375 本/m ²	105%	・ 指標よりやや多い。
葉数	13.1 葉	13.0 葉	+0.1 葉	・ 指標値並み。
葉色 (SPAD 値)	33.2	32.8	+0.4	・ 指標値並み。

注1：県内 14 か所の平均、田植日 5/12、栽植密度 58 株/坪

注2：一部地域では、調査ほ設置場所の違いから、品質安定化対策実証ほの指標値が生育調査ほの指標値と異なる場合がある。

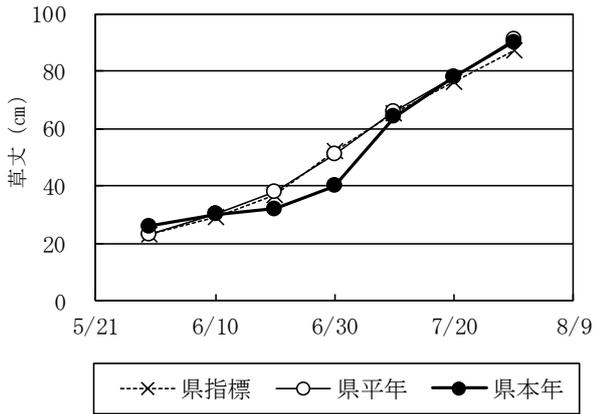


図1 気象感応ほコシヒカリの草丈推移 (県平均値)

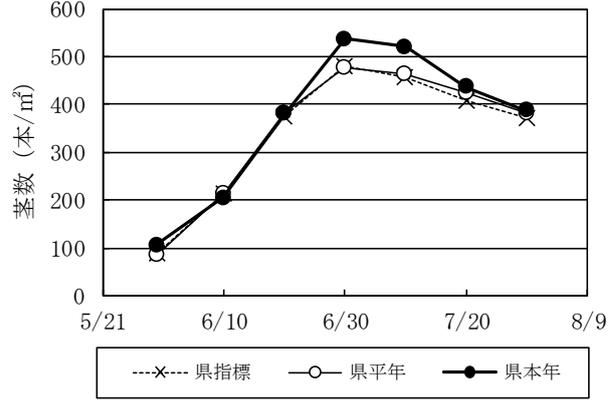


図2 気象感応ほコシヒカリの茎数推移 (県平均値)

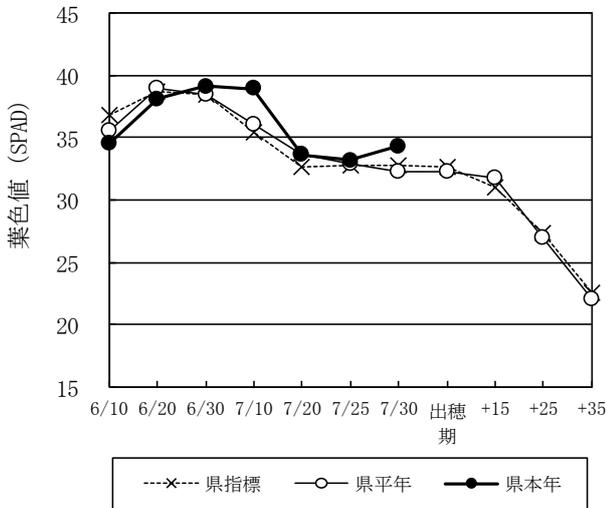


図3 気象感応ほコシヒカリの葉色推移 (県平均値)

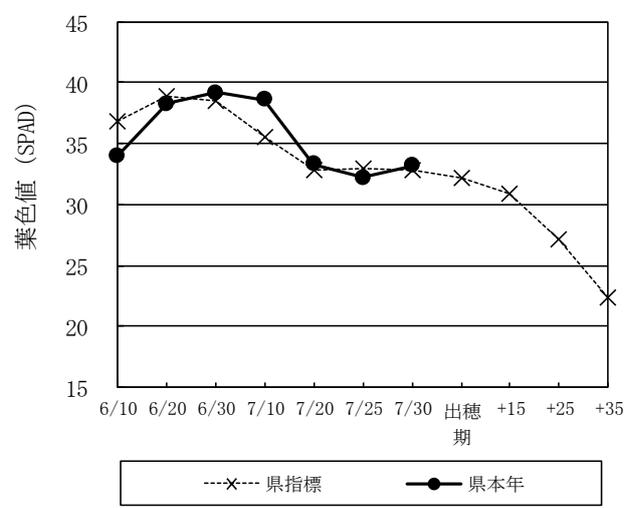


図4 品質安定化対策実証ほコシヒカリの葉色推移 (県平均値)

表3 こしいぶきの生育調査ほ調査結果

項目	7/31 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
茎数	420 本/m ²	389 本/m ²	108%	・ 平年比 105%、H28 年比 101% ・ 指標値よりやや多い。
葉数	12.8 葉	12.8 葉	0.0 葉	・ 平年差 -0.1、H28 年差-0.1 ・ 指標値並み。
葉色 (SPAD 値)	39.0	36.1	+2.9	・ 平年差+1.6、H28 年差+1.5 ・ 指標値より濃い

注：県内 14 か所に設置した生育調査ほの平均、田植日 5/9、栽植密度 60 株/坪

(2) 作物研究センターの調査ほの結果は以下のとおりです。

- コシヒカリの7月31日の生育は、草丈は7月30日調査の近年の平均値に比べてやや短く、平年に比べて総葉数は並み、葉色は濃い(表4)。
- こしいぶきの生育は、7月30日調査の近年の平均値に比べて草丈はやや短く、葉色は平年並み(表5)。出穂期は7月31日となり、平年より2日遅れた。出穂期の生育は、草丈は近年の平均値並み、穂数及び葉数は平年並み、葉色はやや濃い(表6)。

表4 コシヒカリの生育(調査日:7月31日)

	本年値	前年比・差	平年比・差
草丈	92cm	88%	(93%)
葉数	13.1	+0.1	-0.2
茎数	386本/m ²	—	—
葉色	34.3	+1.8	+2.4

注1) 田植5月11日、栽植密度は18.2株/m²。

注2) 草丈の()は、近年比(過去データは平22~28)。

注3) 穂肥 1回目7月20日、2回目7月27日、各窒素成分量1kg/10a。

表5 こしいぶきの生育(調査日:7月31日)

	本年値	前年比・差	平年比・差
草丈	90cm	88%	(94%)
葉色	36.7	+2.1	+0.8

注1) 田植5月11日、栽植密度は19.6株/m²。

注2) 草丈の()は、近年比(過去データは平23~28)。

注3) 穂肥 1回目7月10日、2回目7月18日、各窒素成分量1kg/10a。

表6 こしいぶきの出穂期の生育(調査日:7月31日)

	本年値	前年比・差	平年比・差
出穂期	7月31日	+6	+2
草丈	90cm	97%	(96%)
穂数	424本/m ²	100%	100%
葉数	12.5	+0.1	-0.3
葉色	36.7	+1.4	+1.5

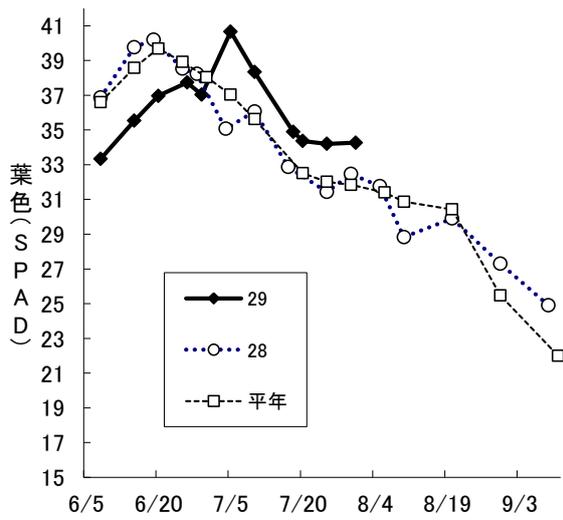


図5 コシヒカリの葉色推移
(29：平29、28：平28、平年：平年値)

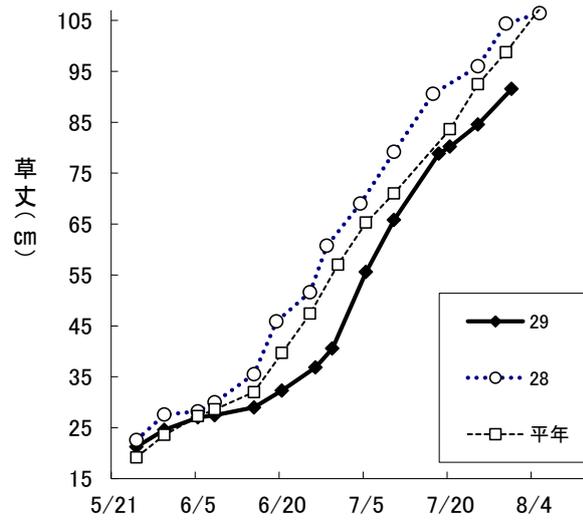


図6 コシヒカリの草丈推移

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

○ 7月25日～30日の日平均地温は平年比+0.6℃だったが（図9）、24日以前の高温の影響により、期間窒素発現は化学肥料区、堆肥区ともに平年より多い（表7）。

表7 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/乾土100g)

調査日		5月10日 (初期値)	7月24日①	7月30日②	地力窒素発現量 ^{※1} (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.1	7.2	8.1	0.9
	前年	1.8	6.2	6.0	-0.2
	平年	2.3	5.5 ※2	5.8	0.4
堆肥施用区	本年	3.5	9.1	9.8	1.3
	前年	2.3	7.8	7.9	0.1
	平年	2.6	6.6 ※2	7.1	0.5

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※2 7月24日の平年値は7月20日と7月30日の平年値の中間値とした。

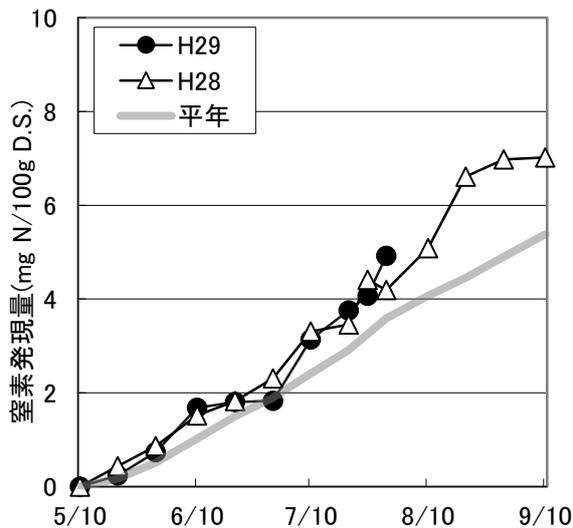


図7 地力窒素の発現推移
(化肥区；初期値を0とした)

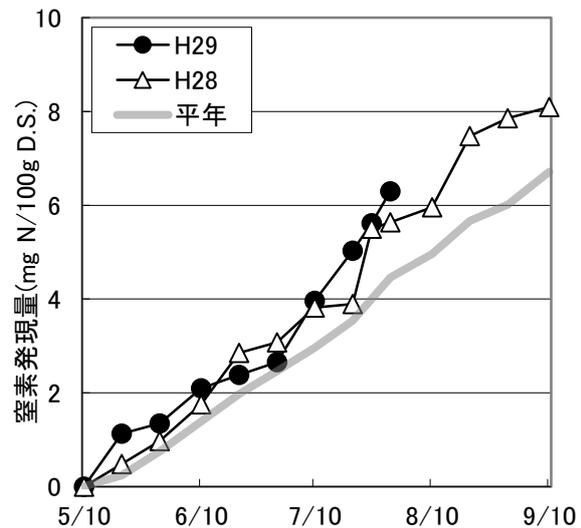


図8 地力窒素の発現推移
(堆肥区；初期値を0とした)

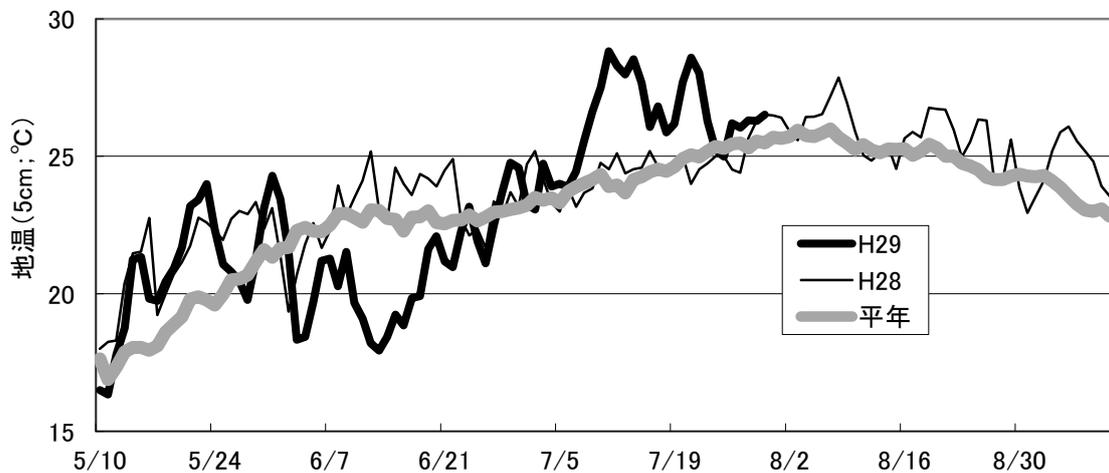


図9 地温(5cm)の推移